

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年4月14日
【事業年度】	第79期（自平成25年4月1日至平成26年3月31日）
【会社名】	株式会社ハウスイ
【英訳名】	HOHSUI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高橋昌明
【本店の所在の場所】	東京都中央区築地五丁目2番1号
【電話番号】	東京（03）3543-3536
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理本部副本部長 小林留一
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区築地五丁目2番1号
【電話番号】	東京（03）3543-3536
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理本部副本部長 小林留一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

当社の連結子会社(持分比率100%)である株式会社せんにち(以下「せんにち」という。)において、同社の元従業員により、過去3年間にわたって、同社の仕入先からの請求書を偽造するなどの手法により、支払金を着服していた事実が判明いたしました。

かかる着服の事実を受けて、せんにちは、同社の顧問税理士事務所及び公認会計士に対し、着服に関する事実関係についての調査を依頼したところ、本調査の過程において、平成25年4月の設立以降3年間にわたり、得意先との取引につき、会計処理の誤りと見られるものも含めて、売上が過大に計上されていたなどの報告を平成28年3月上旬に受けました。

当社としては上記調査結果を受け、当社の監査法人と協議を行い社内調査を実施した結果、当社が平成26年6月25日に提出いたしました第79期(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)に係る有価証券報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の連結財務諸表及び財務諸表については、監査法人和宏事務所により監査を受けており、その監査報告書を添付しております。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

- (1) 連結経営指標等
- (2) 提出会社の経営指標等

第2 事業の状況

1 業績等の概要

- (1) 業績
- (2) キャッシュ・フローの状況

2 生産、受注及び販売の状況

- (2) 商品仕入実績
- (4) 販売実績

7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

- (2) 当連結会計年度の経営成績の分析
- (3) 財政状態
- (4) キャッシュ・フローの分析

第4 提出会社の状況

3 配当政策

第5 経理の状況

2. 監査証明について

1 連結財務諸表等

(1) 連結財務諸表

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
- 連結株主資本等変動計算書
- 連結キャッシュ・フロー計算書

注記事項

- (連結損益計算書関係)
- (金融商品関係)
- (税効果会計関係)
- (セグメント情報等)
- セグメント情報
- 関連情報
- (1株当たり情報)

(2) その他

2 財務諸表等

(1) 財務諸表

- 貸借対照表
- 損益計算書
- 株主資本等変動計算書

注記事項

(損益計算書関係)

(有価証券関係)

(税効果会計関係)

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高 (百万円)	36,253	35,986	43,628	44,451	50,486
経常利益 (百万円)	383	251	505	516	290
当期純利益 (百万円)	227	123	199	248	125
包括利益 (百万円)	-	146	256	314	171
純資産額 (百万円)	5,439	5,414	5,499	5,642	5,641
総資産額 (百万円)	11,967	12,534	14,271	17,146	24,423
1株当たり純資産額 (円)	62.93	62.38	62.78	63.91	63.54
1株当たり当期純利益 (円)	2.72	1.47	2.38	2.97	1.50
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	44.0	41.7	36.8	31.2	21.8
自己資本利益率 (%)	4.31	2.36	3.80	4.65	2.36
株価収益率 (倍)	46.4	71.3	49.9	43.4	86.5
営業活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	1,370	726	1,638	60	656
投資活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	2,205	961	881	3,466	6,140
財務活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	555	225	594	3,087	6,415
現金及び現金同等物の期末 残高 (百万円)	824	816	979	660	1,592
従業員数 (人)	231	222	218	226	287
[外、平均臨時雇用者数]	[228]	[198]	[221]	[211]	[340]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれていない。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高 (百万円)	14,684	15,099	16,231	16,260	18,718
経常利益 (百万円)	206	123	244	286	220
当期純利益 (百万円)	154	63	98	151	<u>54</u>
資本金 (百万円)	2,485	2,485	2,485	2,485	2,485
発行済株式総数 (千株)	83,790	83,790	83,790	83,790	83,790
純資産額 (百万円)	5,453	5,347	5,279	5,277	<u>5,172</u>
総資産額 (百万円)	10,268	10,243	10,134	13,259	<u>18,803</u>
1株当たり純資産額 (円)	65.12	63.85	63.04	63.01	<u>61.77</u>
1株当たり配当額 (円) (内1株当たり中間配当額)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	2 (-)
1株当たり当期純利益 (円)	1.85	0.76	1.18	1.81	<u>0.65</u>
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.1	52.2	52.1	39.8	<u>27.5</u>
自己資本利益率 (%)	2.84	1.19	1.87	2.87	<u>1.05</u>
株価収益率 (倍)	68.2	138.3	100.9	71.4	<u>200.7</u>
配当性向 (%)	108.3	263.5	169.6	110.7	<u>308.7</u>
従業員数 (人)	167	166	153	157	158
[外、平均臨時雇用者数]	[13]	[20]	[19]	[18]	[72]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれていない。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【沿革】

- 昭和20年8月 東京都日本橋区に資本金175千円をもって報國水産株式会社を設立。東京湾内沿岸漁業を行う。
- 昭和21年11月 以西底びき網漁業及びかつお・まぐろ漁業に着手。
- 昭和24年5月 東京証券取引所に株式を上場。
- 昭和30年5月 母船式さけ・ます漁業に出漁。
- 昭和36年10月 東京証券取引所市場第一部に編入。
- 昭和39年8月 本社・新社屋を中央区築地七丁目に竣工。
- 昭和40年8月 アラスカ南海域の北方トロール漁業に出漁。
- 昭和42年5月 西アフリカ海域の南方トロール漁業に出漁。
- 昭和45年7月 インドネシアに えびトロール事業を目的とする合弁会社P.T. IRIAN MARINE PRODUCT DEVELOPMENTを設立。(平成20年3月所有全株式売却)
- 昭和47年7月 パプア・ニューギニアにかつお事業を目的とする合弁会社NEW GUINEA MARINE PRODUCTS PTY., LTD.を設立。昭和50年2月から同社はえびトロール事業の本格操業に入る。(平成3年3月所有全株式売却)
- 昭和50年12月 南太平洋フィジー海域のかつお漁業に出漁。
- 昭和54年4月 アラスカに水産物買付及び加工事業を目的とする現地法人NORTHERN SEAFOODS, INC.を設立。
- 昭和56年8月 鹿児島県串良町に養殖事業を目的とする日南養魚株式会社を設立。(平成6年10月解散)
- 昭和58年10月 北洋水産株式会社と合併。
- 昭和59年8月 商号を株式会社ハウスイに変更。
- 平成3年11月 本社を中央区築地三丁目に移転。事業基盤を漁撈事業から買付商品事業へシフト。
- 平成6年7月 本社を中央区八丁堀一丁目に移転。
- 平成8年3月 恵光水産株式会社の増資に応じ同社を子会社とする。(株式所有割合60%)
- 平成8年4月 鮮魚販売事業を開始。
- 平成11年4月 日東シュリンプ株式会社の株式を取得し同社を子会社とする。(株式所有割合80%)
- 平成13年1月 日東シュリンプ株式会社及び恵光水産株式会社を100%子会社とする。
- 平成13年4月 日東シュリンプ株式会社を吸収合併。
- 平成20年3月 株式会社水産流通の増資に応じ同社を子会社とする。(株式所有割合60%)
- 平成20年4月 中央冷凍株式会社を吸収合併
- 平成20年6月 船橋冷蔵庫(千葉県船橋市)を増設(4,312t)

- 平成20年 8月 株式会社水産流通が中央フーズ株式会社の株式を取得（当社の株式間接所有割合60%）
本社を中央区築地五丁目に移転
水産事業本部を中央区築地四丁目に移転
- 平成21年 4月 大阪支店を開設
- 平成22年 4月 船橋流通センターを開設
- 平成22年 7月 厚木第二物流センター(神奈川県伊勢原市)を増設（10,167 t）
- 平成23年 2月 豊海第三冷蔵超低温庫(東京都中央区)を取得（7,500t）
- 平成25年 4月 大阪府吹田市に厚焼玉子事業等を目的とする株式会社せんにち を設立（株式所有割合100%）
- 平成26年 1月 市川物流センター(21,725t)及び市川流通センターを千葉県市川市に開設

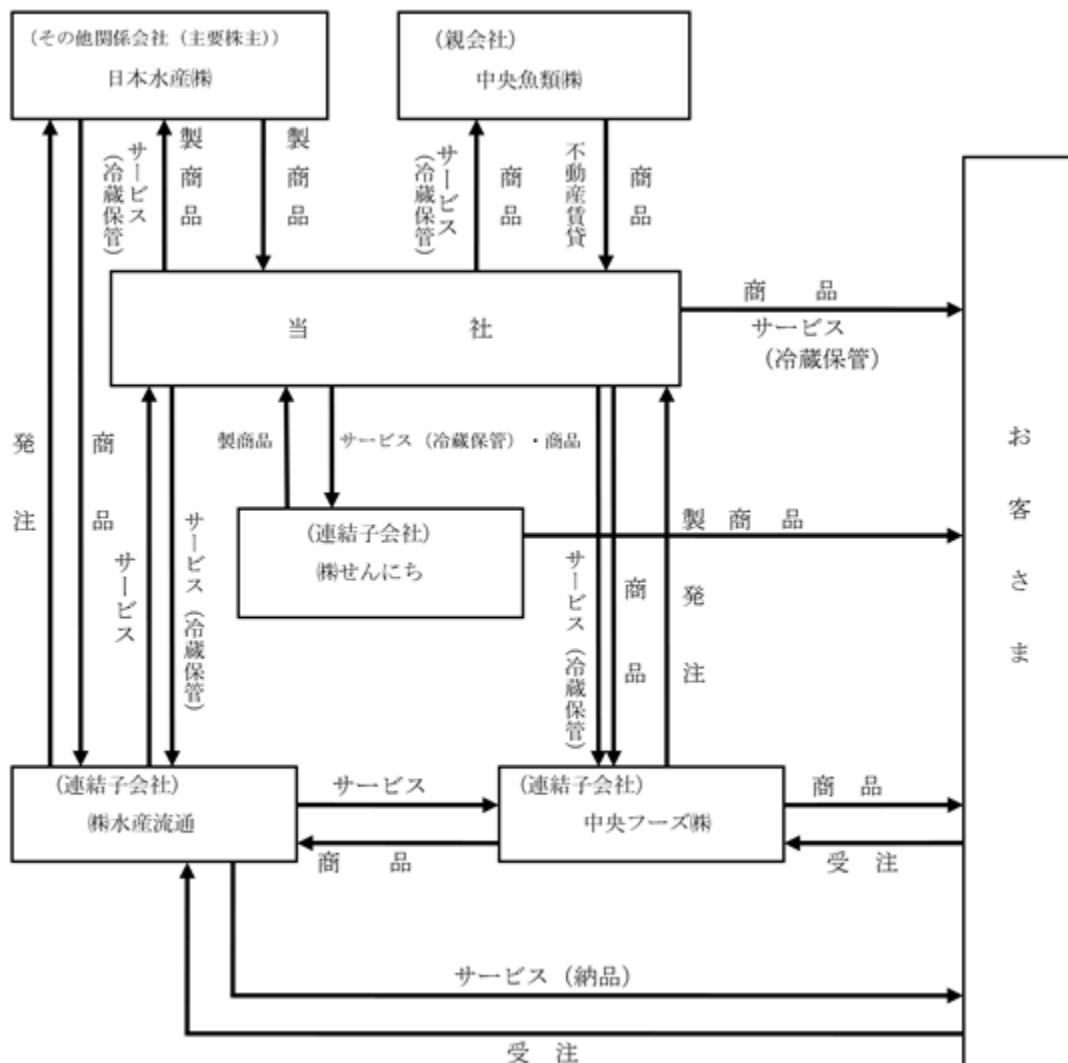
3【事業の内容】

3月末の当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社、親会社、子会社3社(㈱せんにち、㈱水産流通、中央フーズ㈱)、その他の関係会社(主要株主)で構成されており、冷蔵倉庫保管、水産物の買付販売、リテールサポート業務、水産練製品・惣菜他(厚焼玉子等)の製造・加工販売などを主な内容とした事業活動を営んでおります。

当社の企業集団の事業内容及び当該事業における位置付けは次のとおりです。なお、次の事業区分は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

- (1) 冷蔵倉庫事業・・・当社において、水産物を中心に畜産物、農産物およびその加工品の冷蔵・冷凍保管業を営んでおります。
- (2) 水産物卸売事業・・・当社グループにおいて、えび、かに、いか、凍魚などの水産物の水産食材卸売業、水産練製品・惣菜他(厚焼玉子、おぼろ、錦糸等)の製造・加工販売を行う水産食材販売業、食材調達・加工・納品業務を請け負うリテールサポート業を営んでおります。

当社グループの事業系統図は次のとおりです。



4【関係会社の状況】

(1) 親会社

親会社である中央魚類株式会社の状況については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表注記事項(関連当事者情報)」に記載しているため、記載を省略しております。

なお、親会社は有価証券報告書を提出しております。

(2) 連結子会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(株)せんにち	大阪府吹田市	90	水産物卸売事業	100.0	水産練製品等の販売ノウハウをを共有し、今後成長拡大する。 役員の兼任等...有
(株)水産流通	東京都中央区	200	水産物卸売事業	60.0	水産物の販売ノウハウを共有し、今後成長拡大する。 役員の兼任等...有
中央フーズ(株)	東京都中央区	10	水産物卸売事業	60.0 (60.0)	水産物の販売ノウハウを共有し、今後成長拡大する。 役員の兼任等...有

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載している。

2. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数である。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成26年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数
冷蔵倉庫事業	115[18]
水産物卸売事業	153[322]
全社（共通）	19[-]
計	287[340]

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載している。
2. 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属している。
3. 前連結会計年度末に比べ従業員が61名増加しております。増加の主な理由は、株式会社せんにちが連結子会社になったこと及び市川流通センターの開設などによるものです。

(2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数（人）	平均年令（才）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
158	41.3	15.9	5,993,382

セグメントの名称	従業員数
冷蔵倉庫事業	115[18]
水産物卸売事業	24[54]
報告セグメント計	139[72]
全社（共通）	19[-]
合計	158[72]

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載している。
2. 平均年間給与は、税込み給与額の平均であり賞与を含んでいる。
3. 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属している。

(3) 労働組合の状況

平成26年3月31日現在

職種	組合員数（名）	労働組合の名称	所属上部団体	特記事項
職員	81	ハウスイ労働組合	日本食品関連産業労働組合総連合会	なし

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府、日銀による財政・金融政策等により円安・株高が進み個人消費も堅調に推移し、また国内生産も順調に回復したことによって企業の収益環境に改善がみられる等、緩やかな回復基調をたどりました。

一方、水産・食品業界におきましては、景気の回復は期待されているものの、円安進行にともなう原材料の上昇や、生活必需品に対する消費者の低価格志向と節約志向が続く厳しい経営環境にありました。

このような状況のもと、当社グループは、引き続き顧客のニーズに迅速に対応するとともに、増強してきた設備やグループの持つ機能を最大限に活用して収益の確保に努めてまいりました。

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、大型設備投資をともなう新規事業所の開設もあり、前年対比増収減益となりました。その結果、売上高504億86百万円（前年同期比60億35百万円 13.6%増）、営業利益1億99百万円（前年同期比2億49百万円 55.6%減）、経常利益2億90百万円（前年同期比2億25百万円 43.7%減）、当期純利益は1億25百万円（前年同期比1億22百万円 49.4%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

冷蔵倉庫事業

冷蔵倉庫事業は、第4四半期に市川物流センター（21,725トン）を新設したことにより、首都圏9ヶ所に冷凍・冷蔵保管スペース（14万トン）を有し、水産物を中心に畜産物、農産物およびその加工品の保管事業を行っております。当連結会計年度は、円安進行に伴う仕入コストの上昇から輸入貨物の搬入が減少傾向となり在庫量が入庫量を上回り在庫量は減少いたしました。加えて、市川物流センターの開設費用や減価償却費等の負担経費が発生いたしました。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の売上高は42億66百万円（前年同期比29百万円 0.7%増）となり、営業利益は1億85百万円（前年同期比78百万円 29.7%減）となりました。

水産物卸売事業

水産物卸売事業は、えび、カニ、凍魚、魚卵などの卸売りを主体とした水産食材卸売部門と食材調達、加工、納品業務を請け負うリテールサポート部門、ならびに本年度4月に設立した子会社の株式会社せんにちによる厚焼玉子、水産練製品他の製造・加工販売を行う水産食材販売部門で構成されております。

水産食材卸売部門においては、主力のえびがタイで発生した病気を原因として世界的な相場高となり円安とあいまって仕入コストは上昇しましたが、販売価格の改定も順調に進み、売上高、営業利益は昨年を上回りました。

リテールサポート部門においては、既存顧客の売り場増設と新規顧客の開拓により売上高は増加いたしました。販管費の負担増や市川流通センターの開設費用、減価償却費用等により営業利益は昨年を下回りました。

水産食材販売部門においては、主力の厚焼玉子が原卵価格の上昇により所定の利益を確保するには至りませんでした。

以上の結果、水産物卸売事業の売上高は462億20百万円（前年同期比60億5百万円 14.9%増）となり、営業利益は14百万円（前年同期比1億71百万円 92.3%減）となりました。

(2) キャッシュフローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、税金等調整前当期純利益が3億34百万円となり、減価償却費や借入金の増加による収入がありましたが、たな卸資産の増加、有形固定資産の取得、事業譲受による資金減少のため、当連結会計年度末の資金は15億92百万円（前年度末比9億31百万円増加）となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は6億56百万円（前年同期は60百万円の獲得）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益や減価償却費等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は61億40百万円（前年同期は34億66百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得や事業譲受による支出によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は64億15百万円（前年同期は30億87百万円の獲得）となりました。これは主に借入金の増加による収入があったことによるものです。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
水産物卸売事業	961	-
合計	961	-

（注）上記の金額には消費税等は含まれていない。

(2) 商品仕入実績

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
水産物卸売事業	41,785	112.6
合計	41,785	112.6

（注）上記の金額には消費税等は含まれていない。

(3) 受注状況

当社グループは、冷蔵倉庫事業においては保管サービスを伴う役務の提供が主たる事業であり、また、水産物卸売事業においては仕入販売や見込み生産が主たる事業であるため、該当事項はありません。

(4) 販売実績

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
冷蔵倉庫事業	4,266	100.7
水産物卸売事業	46,220	114.9
合計	50,486	113.6

- （注）1．セグメント間の取引については相殺消去している。
2．上記の金額には消費税等は含まれていない。
3．最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりである。

相手先	前連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）		当連結会計年度 （自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）	
	金額（百万円）	割合（％）	金額（百万円）	割合（％）
イオンリテール株式会社	13,827	31.1	14,306	28.3

3【対処すべき課題】

当社および当社グループは、昨年に続き顧客のニーズに的確に応え得る価値あるパートナーとして、堅実な成長をめざします。親会社である中央魚類を含めて当社グループ各社の経営資源（顧客、商材、人材、機能）を相互に活用しながら、水産物流通における役割を果たし、消費者の皆様へ水産物の「おいしさ」や「安全・安心」をお届けします。

特に、第4四半期に事業を開始した市川物流センターならびに流通センターの早期収益化に向けた施策に注力します。更には築地市場の豊洲移転に向けた準備にも万全を期していきます。

冷蔵倉庫事業

関東近県における冷蔵保管機能の更なる充実と低温流通の品質向上、顧客サービスの強化を継続してまいります。なお、平成26年1月末に市川物流センター（21,725トン）と隣接して市川流通センター（5階建て延床面積7,735平方メートル）を竣工いたしました。冷凍保管機能を備えた流通加工のサポート施設としてグループ会社共々有効活用し顧客の拡大を図ってまいります。

水産物卸売事業

水産食材卸売部門については、引き続き海外商品や国内での調達力を強化し、お客様のニーズにお応えするとともに、販売する商品アイテムの拡大と販売経路の拡充に注力してまいります。また、徐々に効果が表れてきた地方への販売力強化のため、必要な人材確保と拠点の充実に取り組み、収益の確保・拡大を図ってまいります。

リテールサポート部門については、開設した市川流通センターを新拠点として新たな顧客へのサービスを開始いたしました。引き続き事業規模拡大に伴う、各拠点の人材育成に尽力するとともに、組織体制の充実を図って参ります。加えて新たな商品開発とお客様への提案を積極的に行い収益の確保を図ってまいります。

水産食材販売部門については、グループ会社との連携をもとに新商品の開発と提案力を強化し、販売先の拡充に努めてまいります。また製造面では、生産能力・生産効率の向上に注力し営業利益の改善を図ってまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、本項において将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

(1) 冷蔵倉庫事業について

当事業は冷蔵設備が首都圏に集中しているため、この地域において地震等の大規模自然災害が発生した場合は、物的・人的被害が予想され、事業が中長期的に中断される可能性があります。

(2) 水産物卸売事業について

水産物卸売事業につきましては、当社水産事業本部のほか、子会社である株式会社せんにち、株式会社水産流通、中央フーズ株式会社にて構成されております。

同事業の中核業務は、当社にて行っているえびを中心とした水産物の卸販売です。水産物は市況の変動が激しい商品であり、急激な変動は当社グループの売上高・収益に影響を及ぼすことがあり、商品在庫についても常にリスクが存在しております。特に、販売のウェイトの高いえびについては国内消費の低迷やグローバルな養殖えびの増大から相場の回復が遅れることも懸念されます。また、当社グループの養殖えびはインドネシアからの輸入仕入割合が高く、カントリーリスクを受けやすい状況にあります。

また、当社の子会社である株式会社せんにち は、水産練製品他（厚焼玉子、おぼろ等）の製造・加工販売業を行っております。原料となる鶏卵につき、何らかの要因（飼料高騰の影響等）で急激な価格変動があった場合、あるいは鳥インフルエンザ問題等により鶏卵自体に安全性の問題が発生した場合には売上高・収益に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社の子会社である株式会社水産流通は、量販店へのリテールサポートを主業務としており、今後はより多くのお客さまに対応できるパブリック型のセンター施設による効率的な運営を目指しています。しかし、安心・安全に対する問題やオーバーストアによる競争激化から閉店等が発生した場合、売上高の減少に伴う手数料収入の減少が起こる可能性があります。

(3) コンピュータシステム障害について

当社の主要なコンピュータシステムにつきましては、水産物卸売事業の販売管理システム、冷蔵倉庫事業の冷蔵倉庫管理システムがあります。保守管理やセキュリティには最大限の力を注いでおりますが、外的要因も含めてこれらのシステムに何らかの障害が生じた場合は事業の運営に多大の影響を及ぼす可能性があります。

(4) 経営成績の季節的変動について

当社グループは、水産物の卸販売を行っておりますが、お歳暮やお正月用食品購入の時期である12月は他の月に比べ売上高及び利益が高くなる傾向があります。また、水産練製品等の販売に関しては、節分の時期にも売上高及び利益が高くなる傾向があります。

(5) 食品の安全・安心について

BSE問題、鳥インフルエンザ問題および食品添加物問題、産地偽装問題等から食品に対する消費者の関心は非常に高まっております。当社グループは企業の社会的責任として法令遵守に徹し、安全で安心な食品の確保を第一としております。

しかしながら、水産業界で食品の安全性に問題が発生した場合は当社グループの業績も影響を受ける可能性があります。

(6) 貸倒れリスクについて

水産・食品業界における中間流通業者や加工業者は、急速な流通構造の変化とデフレ基調のなか、経営体質が弱ってきております。当社グループは与信管理の徹底を図るほか、顧客構造の多角化を進めておりますが、営業活動において得意先の破綻等が発生した場合、利益に影響を受ける可能性があります。

(7) 法令・規則等の遵守について

当社において、万一、法令・規則等に対する違反等があった場合、監督官庁による処分を受ける可能性がある他、当社の信用を著しく低下させ、業績に多大な悪影響を与える可能性があります。

(8) 個人情報の漏洩リスクについて

個人情報の保護については、社内規程等の整備等により、漏洩に対し万全の体制を期しておりますが、万一、個人情報が流出した場合は、当社グループの社会的信用が低下し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

当社は、平成25年3月15日開催の取締役会において、子会社（株式会社せんにち）を設立し、当該子会社において株式会社千日総本社の事業を譲受けることを決議し、平成25年4月19日に事業譲渡契約書を締結いたしました。

また、当社は、平成25年6月14日の取締役会において、連結子会社である株式会社恵光水産の当社保有の株式の一部を売却することを決議し、平成25年6月28日付で売買契約を締結いたしました。

なお、契約の詳細については、「第5 経理の状況 1連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項（企業結合等関係）」をご参照下さい。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであり、実際の業績は様々な要因により、これらの予想と異なる場合があります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されています。なお、個々の「重要な会計方針及び見積り」については、「第5 経理の状況 1連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりです。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高

当連結会計年度の売上高は前年同期比60億35百万円増の504億86百万円となりました。

セグメント別にみると、冷蔵倉庫事業の売上高は、市川物流センターの増設等により増加し、前年同期比29百万円増の42億66百万円となりました。

水産物卸売事業は、水産食材卸売部門においてえびの相場高などを背景として、売上高が昨年を上回りました。リテールサポート部門においては、既存顧客の売り場増設と新規顧客の開拓により売上高が昨年を上回りました。また、当連結会計年度より子会社（株式会社せんにち）の事業譲受により新たに水産食材販売部門が加わったため、その結果、水産物卸売事業の売上高は前年同期比60億5百万円増の462億20百万円となりました。

売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は、前年同期比56億62百万円増の461億89百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、前年同期比6億23百万円増の40億97百万円となりました。

営業利益

営業利益は、売上原価、販管費の拡大により、前年同期比2億49百万円減の1億99百万円となりました。

営業外収益・営業外費用

営業外収益は前年同期比27百万円増の2億1百万円となり、営業外費用は前年同期比3百万円増の1億10百万円となりました。

経常利益

経常利益は、営業利益の減少等により前年同期比2億25百万円減の2億90百万円にとどまりました。

当期純利益

当連結会計年度の当期純利益は、経常利益の減少、減損損失の発生などに伴い前年同期比1億22百万円減の1億25百万円となり、1株当たり当期純利益は1.50円となりました。

(3) 財政状態

資産の部

当連結会計年度末の資産合計は前連結会計年度末に比較して72億77百万円増加し244億23百万円となりました。

流動資産は、子会社である株式会社せんにちの事業譲受等の要因により、現金及び預金、たな卸資産が増加したため、前連結会計年度末に比較して11億96百万円増加し82億64百万円となりました。

固定資産は、冷蔵倉庫事業の設備投資とともに、水産物卸売事業においては株式会社せんにちの事業譲受があったため、前連結会計年度末に比較して60億80百万円増加し161億58百万円となりました。

負債の部

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比較して72億77百万円増加し187億81百万円となりました。

流動負債は、短期借入金の増加等により、前連結会計年度末に比較して22億72百万円増加し91億19百万円となりました。固定負債は、長期借入金の増加等により、前連結会計年度末に比較して50億4百万円増加の96億62百万円となりました。

純資産の部

当連結会計年度末の純資産合計は、株主配当金の支払1億67百万円があったものの、当期純利益1億25百万円等により前連結会計年度末に比較して0百万円減少の56億41百万円となりました。

(4) キャッシュ・フローの分析
(キャッシュ・フローの指標)

内 訳	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
自己資本比率	41.7%	36.8%	31.2%	<u>21.8%</u>
時価ベースの自己資本比率	70.2%	69.9%	63.0%	<u>44.6%</u>
キャッシュフロー対有利子負債比率	266.4%	95.6%	8,050.4%	<u>1,766.1%</u>
インタレスト・カバレッジ・レシオ	29.5倍	79.9倍	1.6倍	<u>6.7倍</u>

(注) 自己資本比率 : 自己資本 / 総資産
 時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額 / 総資産
 キャッシュフロー対有利子負債比率 : 有利子負債 / 営業キャッシュフロー
 インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュフロー / 利息の支払額

(5) 今後の方針について

次期の見通しにつきましては、政府、日銀による財政・金融政策の効果により国内では景気回復の兆しが見えてきたものの、ウクライナ情勢の緊迫化、中国経済の減速懸念等により、世界経済が抱えているリスクは依然として残っております。

このような状況において当社グループは、安定的な売上と利益を確保するため、冷蔵倉庫事業においては、引き続き関東近県における冷蔵保管機能の更なる充実と低温流通の品質向上、顧客サービスの強化を継続してまいります。水産物卸売事業においては、水産食材卸売部門では、販売商品のアイテム拡大・販売経路の拡充に注力して業績向上を図ってまいります。リテールサポート部門では、事業規模拡大に伴い、人材育成・組織体制の強化を図り、新規商品の開発等に取り組んでまいります。水産食材販売部門については、グループ会社とのシナジー効果を図りながら新商品の開発等を通じて収益の拡大を目指してまいります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループは、当連結会計年度において、千葉県市川市に市川物流センターと市川流通センターを建設し、平成26年1月に竣工しました。

当連結会計年度の主要な設備投資の額は以下のとおりです。、

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	当期投資額 (百万円)
㈱ハウスイ	千葉県市川市	冷蔵倉庫事業	物流センター(冷蔵倉庫)	2,139
㈱ハウスイ	千葉県市川市	冷蔵倉庫事業	流通配送センター	2,130
㈱水産流通	千葉県市川市	水産物卸売事業	流通配送センター設備	736

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)	
			建物及 び構築 物	機械装 置及び 運搬具	リース 資産	土地 (面積 ㎡)	工具器 具備品	建物仮 勘定		合計
本 社 (東京都中央区)	全社共通	その他 の設備 (注) 2	27	-	20	-	4	-	52	19
築地冷蔵庫 (東京都中央区)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 2	106	24	2	- (1,371)	0	-	134	9 [2]
豊海第一冷蔵庫 (東京都中央区)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 3	97	51	19	- (2,396)	0	-	169	12 [3]
豊海第二冷蔵庫 (東京都中央区)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 3	407	95	71	- (5,536)	1	-	574	19 [1]
豊海第三冷蔵庫 (東京都中央区)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 3	444	101	52	- (6,008)	1	-	599	19 [5]
船橋冷蔵庫 (千葉県船橋市)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 3	876	83	37	338 (7,258)	35	-	1,370	16 [6]
厚木物流センター (神奈川県伊勢原 市)	冷蔵倉庫事業	営業設 備	1,912	179	38	797 (11,135)	22	-	2,950	18
市川物流センター (千葉県市川市)	冷蔵倉庫事業	営業設 備	2,658	372	58	1,323 (10,778)	54	-	4,466	13
市川流通センター (千葉県市川市)	冷蔵倉庫事業	営業設 備	2,026	116	-	607 (4,950)	-	-	2,750	-

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
			建物及 び構築 物	機械装 置及び 運搬具	リース 資産	土地 (面積 ㎡)	工具器 具備品	建物仮 勘定	合計	
大井冷蔵庫 (東京都大田区)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 4	1	-	1	-	0	-	2	9 [1]
横浜店他 (神奈川県横浜市 他)	水産物卸売事業 (魚惣菜販売店 舗)	営業設 備 (注) 5	20	-	3	-	5	-	28	- [54]
水産営業部、支店 他(東京都中央区 他)	水産物卸売事業 (本社営業・支 店・営業所)	その他 の設備 (注) 5	5	-	0	-	1	-	7	24

(2) 国内子会社
株式会社 せんいち

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
			建物及 び構築 物	機械装 置及び 運搬具	リース 資産	土地 (面積 ㎡)	工具器 具備品	建物仮 勘定	合計	
本社事務所・東京 事務所他 (大阪府吹田市他)	水産物卸売事業	その他 の設備	21	0	23	117 (961)	0	-	163	32 [1]
本社工場 (大阪府吹田市)	水産物卸売事業	生産設 備	192	11	35	90 (802)	1	-	331	17 [65]
本社あん工場 (大阪府吹田市)	水産物卸売事業	生産設 備 (注) 6	12	2	-	-	0	-	15	1 [15]

㈱水産流通

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物及 び構築 物	機械装 置及び 運搬具	リース 資産	土地 (面積 m ²)	工具器 具備品		合計
本 社 (東京都中央区)	水産物卸売事業	その他の設 備	-	0	-	-	2	2	6
伊丹水産センター (兵庫県伊丹市)	水産物卸売事業	営業設備 (注)7	90	32	-	-	6	128	16 [98]
水戸水産センター (茨城県水戸市)	水産物卸売事業	営業設備 (注)8	-	1	-	-	2	3	5 [21]
船橋水産センター (千葉県船橋市)	水産物卸売事業	営業設備 (注)9	118	27	-	-	1	148	3 [10]
市川センター (千葉縣市川市)	水産物卸売事業	営業設備 (注)10	495	153	-	-	40	689	37 [52]

中央フーズ㈱

事業所名 (所在地)	セグメントの名 称	設備の内容	帳簿価額(百万円)			従業員数 (人)	
			建物及び 構築物	土地 (面積m ²)	工具器具 備品		合計
本 社 他 (東京都中央区他)	水産物卸売事業	その他の設備 (注)11	0	-	1	1	12 [6]

(注)1.金額には消費税等を含まない。

- 2.土地を賃借している。年間賃借料は12百万円である。
- 3.土地を賃借している。年間賃借料は187百万円である。
- 4.建物を賃借している。年間賃借料は151百万円である。
- 5.建物を賃借している。年間賃借料は22百万円である。
- 6.建物を賃借している。年間賃借料は11百万円である。
- 7.建物を賃借している。年間賃借料は27百万円である。
- 8.建物他を賃借している。年間賃借料は5百万円である。
- 9.建物を提出会社から賃借している。年間賃借料は34百万円である。
- 10.建物を提出会社から賃借している。年間賃借料は8百万円である。
- 11.建物を賃借している。年間賃借料は2百万円である。
- 12.上記の他、団地冷蔵庫(東京都大田区)として、建物他を賃借している。年間賃借料は27百万円である。
- 13.土地の()は、保有面積(賃借の場合は賃借面積、保有と賃借両方の場合は、合算した面積)である。
- 14.従業員数の〔 〕は、臨時従業員を外書きしている。

3 【設備の新設、除却等の計画】

- (1) 重要な設備の新設等
該当事項はありません。

- (2) 重要な設備の除却等
該当事項はありません

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年6月25日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	83,790,000	83,790,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数1,000株
計	83,790,000	83,790,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成20年4月1日	43,680,000	83,790,000	480,000	2,485,500	50,000	551,375

(注)中央冷凍株式会社との合併による増加である。合併比率はハウスイ1:中央冷凍株式会社45.5で、これにより中央冷凍株式会社の株式1株に対し当社の株式45.5を割当交付した。

(6)【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	18	37	45	26	2	3,461	3,589	-
所有株式数 (単元)	-	1,581	1,370	70,146	384	2	10,214	83,697	93,000
所有株式数の割合(%)	-	1.89	1.64	83.72	0.46	0.00	12.29	100.00	-

(注)期末日現在の自己株式は46,277株であり、「個人その他」の欄に46単元及び「単元未満株式の状況」の欄に277株を含めて記載してある。

(7)【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
中央魚類株式会社	東京都中央区築地五丁目2番1号	46,180	55.11
日本水産株式会社	東京都千代田区大手町二丁目6番2号	23,278	27.78
GMOクリック証券株式会社	東京都渋谷区桜丘町20番1号	288	0.34
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番10号	259	0.31
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	250	0.30
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	217	0.26
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目5番1号	196	0.23
株式会社シゲタコーポレーション	静岡県沼津市岡宮1106番1号	191	0.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	181	0.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	166	0.20
計	-	71,206	84.98

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 46,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 83,651,000	83,651	-
単元未満株式	普通株式 93,000	-	-
発行済株式総数	83,790,000	-	-
総株主の議決権	-	83,651	-

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社ハウスイ	東京都中央区築地五 丁目2番1号	46,000	-	46,000	0.05
計	-	46,000	-	46,000	0.05

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,956	246,743
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式買取りによる株式は含まれていない。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	46,277	-	46,277	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式買取りによる株式は含まれていない。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元は、業績に裏付けられた安定的配当のできる収益体制の確立のもとに利益配分を行うことを基本方針としております。当社の剰余金の配当につきましては、期末配当として年1回行うことを基本的な方針としております。

当期の期末配当金につきましては、単体の当期純利益54百万円、連結当期純利益1億25百万円を計上したことに伴い、上記方針に基づき、1株につき2円（単体配当性向308.7%、連結配当性向133.1%）とさせていただきます。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。なお、当社は「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める。」旨定款に定めております。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成26年5月13日 取締役会決議	167	2

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	188	141	147	180	190
最低(円)	80	58	77	93	101

(注) 上記は東京証券取引所(市場第一部)におけるものである。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	159	154	146	190	147	138
最低(円)	125	127	126	131	124	124

(注) 上記は東京証券取引所(市場第一部)におけるものである。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)		乃美 昭俊	昭和10年5月29日生	昭和34年3月 東京水産大学製造学科卒業 同 年同月 株式会社 新東西入社 平成3年6月 同代表取締役専務取締役 平成8年10月 合併により新日本コールド株式会社常務取締役 平成11年6月 同常務取締役退任 同 年9月 中央冷凍株式会社取締役 平成12年5月 同常務取締役 平成14年5月 同専務取締役 平成15年5月 同代表取締役社長 平成20年4月 合併により当社代表取締役社長 平成23年6月 当社代表取締役会長就任(現)	(注)3	50
取締役社長 (代表取締役)	管理本部長	高橋 昌明	昭和20年4月13日生	昭和43年3月 東北大学経済学部卒業 同 年4月 日本水産株式会社入社 平成9年6月 同取締役首都圏営業部長 平成15年4月 同常務取締役 平成19年6月 同常務取締役退任 同 年同月 中央魚類株式会社専務取締役 平成20年4月 当社監査役 平成21年6月 同監査役辞任 同 年同月 株式会社水産流通代表取締役社長 平成22年6月 当社取締役副社長 同 年同月 中央魚類株式会社取締役 平成23年6月 当社代表取締役社長就任(現)	(注)3	50
取締役副社長		小川 征英	昭和18年12月18日生	昭和37年3月 千葉県立銚子水産高等学校製造科卒業 同 年4月 株式会社ニチレイ入社 平成9年4月 同本社水産部部長 平成15年6月 日新水産株式会社代表取締役社長 平成16年4月 株式会社まるいち加工代表取締役社長 平成18年5月 船橋中央魚類株式会社代表取締役社長 平成19年6月 中央魚類株式会社取締役 平成20年6月 同常務取締役、営業本部本部長 平成22年6月 同取締役専務執行役員、営業本部本部長 平成23年5月 船橋中央魚類株式会社代表取締役社長 平成24年6月 中央魚類株式会社取締役副社長・副社長執行役員、営業本部本部長(現) 平成25年6月 当社取締役就任 平成26年6月 当社取締役副社長就任(現)	(注)3	5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	冷蔵事業本部長	山下 勝征	昭和20年5月31日生	昭和43年3月 法政大学経営学部卒業 同 年4月 中央冷凍株式会社入社 平成9年7月 同厚木物流センター工場長 平成11年5月 同取締役営業推進部長 平成16年5月 同常務取締役 平成20年4月 合併により当社取締役常務執行役員 同 年同月 当社冷蔵事業本部長(現) 平成23年6月 当社取締役専務執行役員就任(現)	(注)3	40
取締役	水産事業本部長	伊藤 晴彦	昭和42年3月17日生	平成2年3月 日本大学農獣医学部卒業 同 年4月 株式会社ニチレイ入社 平成12年4月 中央魚類株式会社入社 平成19年1月 同開発部ゼネラルマネージャー 平成20年4月 当社取締役就任(現) 同 年6月 中央魚類株式会社取締役 平成21年4月 同情報システム部担当兼開発部長 平成22年6月 同取締役退任 同 年同月 同執行役員情報システム部担当兼冷凍部長 平成23年6月 当社常務執行役員 平成24年6月 当社水産事業本部長(現) 平成25年4月 恵光水産株式会社代表取締役社長 同 年5月 株式会社水産流通代表取締役社長就任(現) 同 年6月 当社専務執行役員就任(現)	(注)3	53
取締役	冷蔵事業本部 副本部長 兼 冷蔵営業部長	中島 廣	昭和23年2月21日生	昭和45年3月 東京水産大学製造学科卒業 同 年4月 中央冷凍株式会社入社 平成9年7月 同川崎冷蔵庫工場長 平成11年5月 同取締役営業推進部長 平成19年5月 同常務取締役 平成20年4月 合併により当社常務執行役員 同 年同月 冷蔵事業本部副本部長兼冷蔵営業部長(現) 平成21年6月 当社取締役常務執行役員 平成26年6月 当社取締役専務執行役員就任(現)	(注)3	35

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		菅原 誠	昭和28年2月22日生	昭和50年3月 東京水産大学漁業学科卒業 昭和51年3月 同校専攻科終了 昭和63年2月 日東シュリンプ株式会社営業第二部長 平成3年2月 同取締役 平成13年4月 合併により当社営業第一部長 同 年6月 同取締役就任(現) 平成20年4月 職制変更により執行役員水産事業本部副本部長兼水産営業部長 平成21年4月 職制変更により執行役員水産事業本部副本部長 同 年12月 恵光水産株式会社代表取締役社長 平成23年6月 当社執行役員水産事業本部長 平成24年6月 同執行役員水産事業担当 平成25年4月 株式会社せんにち代表取締役社長就任(現)	(注)3	10
取締役		大滝 義彦	昭和18年2月21日生	昭和41年3月 法政大学工学部卒業 同 年4月 中央魚類株式会社入社 平成12年6月 同取締役 平成14年6月 同常務取締役 平成16年11月 同専務取締役 平成19年6月 同取締役副社長 平成22年6月 同代表取締役社長就任(現) 平成23年6月 当社取締役就任(現)	(注)3	10
取締役		水流 良一	昭和20年9月22日生	昭和43年3月 鹿児島大学水産学部水産製造科卒業 同 年4月 東洋水産株式会社入社 昭和62年6月 PAC-MARU, INC. PRESIDENT 平成3年6月 東洋水産株式会社取締役 平成9年6月 同常務取締役 平成13年1月 海南東洋水産有限公司董事長 同 年同月 湛江東洋水産有限公司董事長 平成15年6月 東洋水産株式会社専務取締役 平成18年6月 同顧問 平成22年6月 中央魚類株式会社監査役 平成25年6月 同監査役辞任 同 年同月 当社取締役就任(現)	(注)3	10

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		田中 正	昭和24年6月7日生	昭和48年3月 専修大学法学部卒業 昭和63年2月 日東シュリンプ株式会社営業 第一部長 平成3年2月 同取締役 同 年6月 仙台支店長 平成13年4月 合併により当社仙台支店長 同 年6月 当社取締役 平成20年3月 同取締役退任 同 年4月 同執行役員 平成21年4月 同仙台支店長兼大阪支店長 平成24年6月 同監査役就任(現)	(注)4	10
常勤監査役		有田 昇治	昭和23年11月12日生	昭和51年3月 東京水産大学漁業学科専攻科 修了 同 年4月 中央魚類株式会社入社 平成14年5月 中央小揚株式会社取締役 平成17年2月 同代表取締役社長 平成24年6月 当社監査役就任(現)	(注)4	1
監査役		小泉 雅英	昭和25年2月19日生	昭和47年3月 明治大学商学部卒業 同 年4月 日本水産株式会社入社 平成10年3月 同経理部担当部長 同 年6月 当社監査役就任(現) 平成14年5月 日本水産株式会社監査室長 平成15年3月 同経理部長 平成19年6月 同監査役就任(現)	(注)4	0
監査役		所 英樹	昭和29年8月26日生	昭和52年3月 東京水産大学食品学科卒業 同 年4月 株式会社小網(現 三井食品 株式会社)入社 昭和56年10月 アーサーアンダーセンアンド カンパニー(現 アクセン チュア株式会社)入社 昭和58年1月 株式会社所芳樹会計事務所 (現 株式会社ところ会計事 務所)代表取締役社長就任 (現) 平成22年3月 株式会社すかいらーく監査役 平成23年6月 当社監査役就任(現)	(注)5	0
計						274

- (注) 1. 取締役 水流 良一は社外取締役である。
2. 監査役 小泉 雅英、有田 昇治、所 英樹は社外監査役である。
3. 平成26年6月25日開催の定時株主総会の終結のときから1年間
4. 平成24年6月26日開催の定時株主総会の終結のときから4年間
5. 平成23年6月24日開催の定時株主総会の終結のときから4年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

(a) 企業統治の体制の概要

当社グループは、コーポレート・ガバナンスを最重要課題のひとつとして認識しており、公正で透明性の高い充実した監査・監督機能を具備するため下記の体制を構築しております。

ア．取締役会

取締役会は、本報告書提出日現在9名（うち社外取締役1名）で構成され、毎月1回の定例取締役会を、また必要に応じて臨時取締役会を開催し迅速に経営上の意思決定を行っております。

社長はグループを統治し、各事業部門の取締役が執行責任者となって、毎月冷蔵営業会議及び水産営業会議を行い、業務執行のスピードアップと業務責任の遂行を期しております。また、社長はリスクマネジメント委員会、倫理委員会、環境委員会、品質保証委員会の委員長となって、公正で透明性の高い会社組織の維持・発展に努めております。

また、取締役の経営責任を明確にするため、取締役の任期を選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までと定めております。

イ．監査役会

当社は監査役制度を採用しております。本報告書提出日現在4名の監査役（うち社外監査役3名）が、法令、定款及び監査役会規程に従って監査を行っており、取締役会による重要な事項の決定と業務執行状況等を監査しております。

(b) 企業統治の体制を採用する理由

当社グループの企業統治は、株主・取引先・従業員・地域社会など多様なステークホルダーとの信頼関係の維持向上と、役割と責任の明確化・スピード化による取締役会機能の充実により企業価値の向上を目指すことを目的に、公正で透明性の高い充実した企業統治体制を構築いたしました。

(c) 内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムの根幹は、経営理念に基づき制定したリスクマネジメント規程、倫理憲章、環境憲章、品質保証委員会規程を役職員に周知徹底させて、健全な会社経営を行うための内部統制システム体制を構築することにあります。

現在、組織管理と経営判断を行う組織として社長を委員長とした4つの委員会（リスクマネジメント委員会、倫理委員会、環境委員会、品質保証委員会）が設けられており、監査役による監査を受けるほか、取締役会への報告が年2回行われております。

ア．リスクマネジメント委員会

適切なリスクマネジメントの実行が経営の重要課題であるため、社長を委員長とするリスクマネジメント委員会を年2回開催し、当社グループの重要リスクの把握と影響度、対応策を協議するほか、緊急時には迅速に臨時の委員会を招集する体制となっております。

イ．倫理委員会

当社グループは倫理憲章を制定するほか、社長を委員長とする倫理委員会を年2回開催し、規程及び法令の遵守と正しく公正な行動を行うための活動をしております。また、倫理・法令違反行為に対応するため、内部通報制度を設けております。

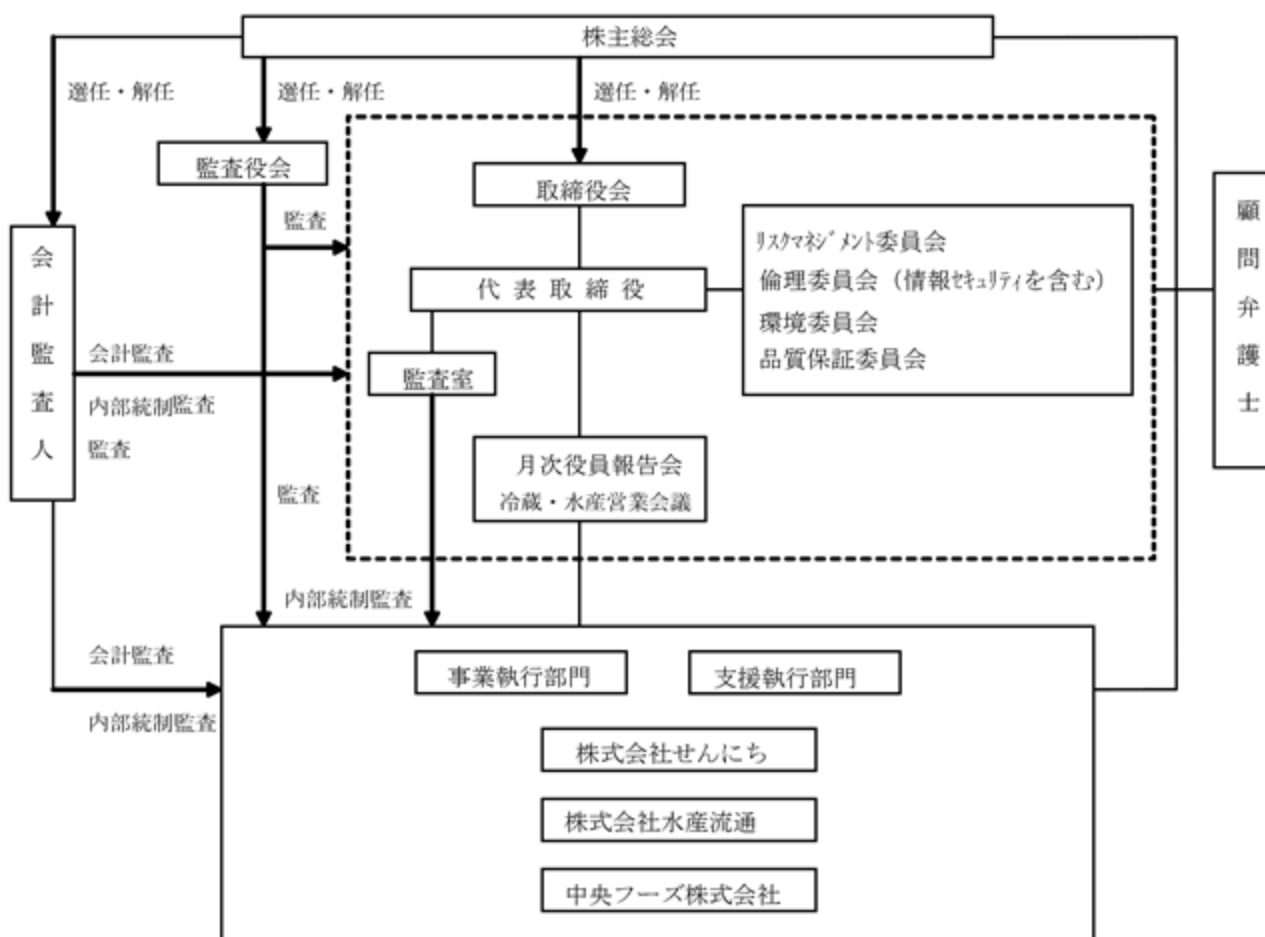
ウ．環境委員会

当社グループは環境憲章を制定するほか、社長を委員長とする環境委員会を年2回開催し、環境設備の設置や環境活動の実施に努めています。

エ．品質保証委員会

冷蔵事業及び水産事業の品質維持向上のため、社長を委員長とする品質保証委員会をそれぞれの事業で年2回づつ開催し、冷蔵事業の保管サービス、水産事業の商品保全に努めております。

(d) 内部統制の模式図（平成26年3月31日現在）



(e) リスク管理体制の整備状況

当社グループはリスクマネジメント委員会を設置し、想定されるリスクの重要度、影響度を調査して年2回取締役会に報告するとともに、リスクを未然に防止するため、リスクマネジメント規程を策定して早急に対応できるリスク管理体制を構築しております。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査部門として社長直轄の組織である監査室を設置し、当社及び当社グループのリスクマネジメントやコンプライアンスに係る内部統制システムと財務報告の信頼性を確保するための内部統制を実施して取締役会、監査役会に監査の結果を報告する体制をとっております。

また、監査役会は、取締役会、月次役員報告会等に出席するほか、取締役及び使用人からその職務の執行状況の報告を受けるとともに、各監査役は業務状況を調査しております。

監査機能の実行性を高めるため、監査室は定期的または必要に応じて、監査役会と意見・情報等の交換を行い、相互に連携強化に努めております。また、監査役会は、会計監査人から監査の実施状況や監査計画など会計監査に関する報告を受けるとともに、意見交換を行うなど、会計監査人との相互連携をはかっています。

社外取締役及び社外監査役

本報告書提出日現在、当社の社外取締役は1名、社外監査役は3名であります。

社外取締役水流良一氏と当社との人的関係につきましては、当社の親会社である中央魚類株式会社の監査役を同氏がかつて務めていた経歴があります。資本的関係につきましては、同氏は本有価証券報告書提出日現在、当社株式を10千株保有しております。また、同氏と当社の間には特別の利害関係はありません。

同氏が監査役を務めていた中央魚類株式会社は、当社の議決権55.2%を保有する親会社であり、当社と中央魚類株式会社との間には商品売買、冷蔵保管の取引関係があり、当社は資金の借入を同社から行っております。

社外監査役小泉雅英氏と当社との人的関係につきましては、当社の主要株主である日本水産株式会社の監査役を同氏が兼務しております。当社と同氏の間において資本的関係及びその他の特別の利害関係は特にありません。

同氏が監査役を兼務する日本水産株式会社は当社の議決権27.8%を保有する主要株主であり、当社は日本水産株式会社との間に商品売買、冷蔵保管の取引関係があります。

社外監査役有田昇治氏と当社との人的関係につきましては、同氏は、かつて当社の親会社である中央魚類の社員だった経歴があり、その後中央魚類株式会社の子会社である中央小揚株式会社の代表取締役社長を務めており

ました。資本的関係につきましては、同氏は本有価証券報告書提出日現在、当社株式を1千株保有しております。また、同氏と当社の間には特別の利害関係はありません。

同氏が役員を務めていた中央小揚株式会社は中央魚類株式会社の100%子会社にあたります。なお、当社と中央小揚株式会社との間に重要な取引関係はありません。

社外監査役所英樹氏と当社の間で、人的関係、資本的関係及び特別の利害関係はありません。

また、当社と、同氏が役員もしくは使用人として務めていた他の会社との間に、人的関係、資本的関係または取引関係その他の利害関係について、重要なものはございません。

当社では、社外取締役又は社外監査役が企業統治において果たす機能及び役割並びに当該社外役員を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針につきまして、特に制定しておりませんが、選任にあたっては、以下に述べる経歴に鑑み、当社との関係を踏まえて、当社経営陣から十分な独立性を確保し、当社の企業価値向上のため、客観的視点から当社の経営方針等の監視機能を充実させる職務を担えるものと判断し、選任いたしました。

水流良一氏は長年にわたり海外等で会社経営に携わった豊富な経験と見識を当社の経営に活かしていただくため、社外取締役としての選任をお願いするものであります。

小泉雅英氏は日本水産株式会社の経理部門の責任者として長年の経験があり、財務及び会計の知見を有することから、客観的視点から社外監査役の職務を果たせるものと判断いたしました。有田昇治氏は中央小揚株式会社の企業経営における豊富な経験や見識を活かし、当社の経営全般に対する監督と有効な助言を行い、客観的視点から社外監査役の職務を果たせるものと判断いたしました。所英樹氏は公認会計士および税理士の資格を有しており、財務・会計に関する専門的見地ならびに監査役としての実務経験を有することから、同氏の適正な監査、助言により、客観的視点から社外監査役の職務を果たせるものと判断いたしました。また、同氏につきましては、当社の間には特別の利害関係等ないことから、一般株主との利益相反を生じる恐れがないものと判断し、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

また、社外取締役はこれまでの経験を踏まえて、各事業計画、特に海外経営戦略や内部統制システムに関する案件などに必要に応じて参画し、情報交換や意見交換を行います。社外監査役は上記「(1) 内部監査及び監査役監査の状況」にも記載のとおり、監査機能の実行性を高めるため、監査室や会計監査人と相互連携をはかり、監査機能の実行性の確保に努めております。

会計監査の状況

会計監査は監査法人和宏事務所に依頼しており、定期的な監査のほか、会計上の課題については随時確認を行い会計処理の適正性に努めております。

同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には特別の利害関係はなく、当社は会社法監査、金融商品取引法監査について監査契約を締結し、それに基づき報酬を払っております。

当期において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者は下記のとおりです。

- ・業務を執行した公認会計士の氏名
業務執行社員 : 塩崎 省三、入沢 頼二
- ・会計監査業務に係る補助者
公認会計士 2名

役員報酬の内容

ア 役員区分ごとの報酬の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	122	108	-	14	-	9
監査役 (社外監査役を除く。)	12	12	-	-	-	1
社外役員	15	15	-	0	-	4

(注) 1. 上記には平成25年6月25日開催の第78回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名を含んでいる。

2. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれていない。

イ 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ウ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません

エ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨定款に定めております。

取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任の決議は議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役会の選任決議は累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、機動的な資本政策および配当政策を図るため、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計
14銘柄 268百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
森永製菓(株)	69,741	14	取引関係
日水製菓(株)	8,052	8	取引関係
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	9,260	5	取引関係
野村ホールディングス(株)	3,000	1	取引関係
(株)みずほフィナンシャルグループ	7,770	1	取引関係
OUGホールディングス(株)	4,200	0	取引関係
(株)大水	1,398	0	取引関係

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
森永製菓(株)	74,444	16	取引関係
日水製菓(株)	8,052	8	取引関係
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	9,260	5	取引関係
野村ホールディングス(株)	3,000	1	取引関係
(株)みずほフィナンシャルグループ	7,770	1	取引関係
OUGホールディングス(株)	4,200	0	取引関係
(株)大水	1,398	0	取引関係

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	15	0	17	0
連結子会社	-	-	-	-
計	15	0	17	0

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社が監査公認会計士に対して報酬を支払った非監査業務の内容は、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法第17条第1項の規定による賦課金に係る特例の認定申請に関する手続業務であります。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士に対して報酬を支払った非監査業務の内容は、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法第17条第1項の規定による賦課金に係る特例の認定申請に関する手続業務であります。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、規模・特性・監査日数等を勘案した上定めております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項より、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、監査法人和宏事務所により監査を受けております。

また、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の連結財務諸表及び財務諸表について、監査法人和宏事務所による監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準の内容を適切に把握し、又は会計基準の変更等についての的確に対応できる体制を準備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、研修等に参加して最新情報の収集を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	382	1,214
受取手形及び売掛金	4,026	4,054
商品及び製品	1,493	1,877
原材料及び貯蔵品	6	26
関係会社預け金	988	658
繰延税金資産	51	56
その他	146	399
貸倒引当金	27	23
流動資産合計	7,068	8,264
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	11,641	17,188
減価償却累計額	7,244	7,633
建物及び構築物(純額)	4,397	9,555
機械装置及び運搬具	3,047	3,677
減価償却累計額	2,348	2,422
機械装置及び運搬具(純額)	698	1,255
工具、器具及び備品	277	403
減価償却累計額	199	222
工具、器具及び備品(純額)	78	180
土地	3,096	3,304
リース資産	406	576
減価償却累計額	190	212
リース資産(純額)	215	364
建設仮勘定	968	-
有形固定資産合計	19,454	114,659
無形固定資産		
のれん	-	706
その他	161	200
無形固定資産合計	161	907
投資その他の資産		
投資有価証券	2,174	2,305
長期貸付金	6	11
繰延税金資産	153	148
その他	127	132
貸倒引当金	-	5
投資その他の資産合計	461	591
固定資産合計	10,078	16,158
資産合計	17,146	24,423

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,190	4,326
1年内返済予定の長期借入金	1,138	1,133
1年内返済予定の関係会社長期借入金	70	394
短期借入金	600	2,175
関係会社短期借入金	900	800
リース債務	74	115
未払法人税等	120	90
賞与引当金	74	75
役員賞与引当金	13	14
その他	664	995
流動負債合計	6,846	9,119
固定負債		
長期借入金	1,312	1,493
関係会社長期借入金	64	3,101
リース債務	141	252
退職給付引当金	870	-
退職給付に係る負債	-	891
役員退職慰労引当金	0	-
長期未払金	117	122
長期預り保証金	6	6
本社移転損失引当金	147	147
負ののれん	183	146
固定負債合計	4,657	9,662
負債合計	11,503	18,781
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,485	2,485
資本剰余金	1,222	1,220
利益剰余金	1,630	1,590
自己株式	1	1
株主資本合計	5,336	5,294
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15	26
その他の包括利益累計額合計	15	26
少数株主持分	290	320
純資産合計	5,642	5,641
負債純資産合計	17,146	24,423

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	44,451	50,486
売上原価	40,527	46,189
売上総利益	3,923	4,296
販売費及び一般管理費	2 3,473	2 4,097
営業利益	449	199
営業外収益		
受取利息	6	7
受取配当金	1	1
負ののれん償却額	36	36
補助金収入	46	17
雑収入	82	137
営業外収益合計	173	201
営業外費用		
支払利息	44	106
租税公課	20	-
借入手数料	40	-
雑支出	2	4
営業外費用合計	106	110
経常利益	516	290
特別利益		
関係会社株式売却益	-	63
特別利益合計	-	63
特別損失		
固定資産除却損	3 5	-
減損損失	-	4 17
事務所移転費用	-	1
特別損失合計	5	19
税金等調整前当期純利益	510	334
法人税、住民税及び事業税	212	180
法人税等調整額	2	6
法人税等合計	210	173
少数株主損益調整前当期純利益	300	160
少数株主利益	51	34
当期純利益	248	125

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	300	160
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13	11
その他の包括利益合計	13	11
包括利益	314	171
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	262	137
少数株主に係る包括利益	51	34

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包 括利益累計 額	少数株主持 分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合 計	その他有価 証券評価差 額金		
当期首残高	2,485	1,222	1,549	1	5,255	1	242	5,499
当期変動額								
剰余金の配当			167		167			167
連結範囲の変動								-
当期純利益			248		248			248
自己株式の取得				0	0			0
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）						13	47	61
当期変動額合計	-	-	81	0	81	13	47	142
当期末残高	2,485	1,222	1,630	1	5,336	15	290	5,642

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包 括利益累計 額	少数株主持 分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合 計	その他有価 証券評価差 額金		
当期首残高	2,485	1,222	1,630	1	5,336	15	290	5,642
当期変動額								
剰余金の配当			167		167			167
連結範囲の変動		1	0		0			0
当期純利益			125		125			125
自己株式の取得				0	0			0
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）						11	30	41
当期変動額合計	-	1	40	0	42	11	30	0
当期末残高	2,485	1,220	1,590	1	5,294	26	320	5,641

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	510	334
減価償却費	636	726
固定資産除却損	5	-
退職給付引当金の増減額（は減少）	7	-
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	-	21
減損損失	-	17
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	127	0
賞与引当金の増減額（は減少）	2	0
役員賞与引当金の増減額（は減少）	0	0
貸倒引当金の増減額（は減少）	7	1
受取利息及び受取配当金	7	9
支払利息	44	106
関係会社株式売却損益（は益）	-	63
のれん償却額	-	71
たな卸資産評価損	-	9
負ののれん償却額	36	36
売上債権の増減額（は増加）	72	43
たな卸資産の増減額（は増加）	325	413
仕入債務の増減額（は減少）	477	136
未収消費税等の増減額（は増加）	42	171
未払消費税等の増減額（は減少）	52	-
その他	152	260
小計	367	947
利息及び配当金の受取額	7	9
利息の支払額	37	97
法人税等の支払額	276	203
営業活動によるキャッシュ・フロー	60	656
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	3,230	5,265
無形固定資産の取得による支出	8	52
投資有価証券の取得による支出	1	89
差入保証金の差入による支出	0	8
差入保証金の回収による収入	5	5
預り保証金の返還による支出	2	0
預り保証金の受入による収入	0	4
関係会社預け金の増加による支出	200	-
関係会社預け金の減少による収入	-	450
短期貸付けによる支出	29	0
長期貸付けによる支出	-	5
長期貸付金の回収による収入	0	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	142
事業譲受による支出	-	2,121
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,466	6,140

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	5,800	5,650
短期借入金の返済による支出	5,130	4,175
長期借入れによる収入	3,000	5,650
長期借入金の返済による支出	337	427
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	167	167
少数株主への配当金の支払額	4	4
リース債務の返済による支出	73	110
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,087	6,415
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	318	931
現金及び現金同等物の期首残高	979	660
現金及び現金同等物の期末残高	3,660	3,1,592

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

㈱せんにち

㈱水産流通

中央フーズ㈱

当連結会計年度より、㈱せんにちが連結子会社となっている。また、連結子会社であった恵光水産㈱の株式の一部を平成25年7月1日付で譲渡したことに伴い、持分比率が低下したため、恵光水産㈱を当連結会計年度より連結の範囲から除外している。

(2) 非連結子会社はない。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社又は関連会社の数 0社

イ 持分法を適用していない関連会社の名称 北海道ペス力㈱ ㈱柳河

ロ 持分法を適用していない理由

持分法を適用していない関連会社は、当期純利益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外している。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致している。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

(イ) 関連会社株式

移動平均法による原価法

(ロ) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定している。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ デリバティブ

時価法

ハ たな卸資産

(イ) 商品・原材料

個別法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

(ロ) 貯蔵品

個別法に基づく原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)については定額法。建物以外については定率法(魚惣菜専門店の建物附属設備については定額法、子会社の一部センターについては建物以外も定額法)

ロ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

ハ 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用している。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収の可能性を勘案し、回収不能見込額を計上している。

ロ 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額の当連結会計年度負担額を計上している。

ハ 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上している。

ニ 本社移転損失引当金

本社移転に伴い発生する損失に備えるため、発生が見込まれる固定資産除却損について合理的な見積額を計上している。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び一部を除く連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用している。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっている。ただし、為替予約取引については振当処理を適用している。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 ... 為替予約

ヘッジ対象 ... 外貨建債権債務に係る将来の為替変動リスク

ハ ヘッジ方針

為替変動リスクを回避するために行っている。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性の判断を行っている。

(6) のれん及び負ののれんの償却に関する事項

のれん及び負ののれんの償却については、10年間の定額法により償却を行っている。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなる。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

イ 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用している。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

前連結会計年度において表示していた「退職給付引当金」は「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)の適用に伴い、当連結会計年度より、「退職給付に係る負債」として表示しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、表示の組替えは行っておりません。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当連結会計年度 (平成26年3月31日)	
土地	2,190百万円		2,190百万円	
建物	922 "	(922百万円)	2,969 "	(840百万円)
構築物	22 "	(22 ")	18 "	(18 ")
機械装置	78 "	(78 ")	70 "	(70 ")
計	3,213 "	(1,023 ")	5,249 "	(929 ")

担保付債務は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当連結会計年度 (平成26年3月31日)	
1年内返済予定の長期借入金	38百万円	(38百万円)	133百万円	(38百万円)
長期借入金	3,126 "	(126 ")	4,993 "	(87 ")
計	3,164 "	(164 ")	5,126 "	(126 ")

上記のうち、()内書は工場財団抵当並びに当該債務を示している。

2 関連会社に対するものは、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資有価証券(株式)	10百万円	10百万円

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれている。

前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
- 百万円	9百万円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
給与諸手当	824百万円	921百万円
貸倒引当金繰入額	7 "	1 "
賞与引当金繰入額	36 "	38 "
退職給付費用	51 "	52 "
役員退職慰労引当金繰入額	11 "	0 "
役員賞与引当金繰入額	13 "	14 "
のれん償却額	- "	71 "

- 3 固定資産除却損の内容は次のとおりである。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物	0百万円	- 百万円
機械装置及び運搬具	4 "	- "
工具、器具及び備品	0 "	- "
計	5 "	- "

4 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは次の資産について減損損失を計上している。

場 所	用 途	種 類	減損損失
東京都墨田区	魚惣菜販売店舗設備等	建物附属設備、工具器具備品他	17百万円

当社グループは、減損損失を認識するにあたっては、管理会計上の損益を把握する単位である事業部署別（魚惣菜販売店舗は店舗別、冷蔵庫は各冷蔵庫別）にグルーピングを行い、本社管理部門に係る資産は共用資産としてそれぞれの物件ごとに1つの資産グループとしている。

魚惣菜販売店舗中の1店舗については継続して損益がマイナスとなり、今後においても当初より想定していた収益を見込むことは困難であると判断されるため、当該店舗の建物附属設備、工具器具備品等の帳簿価格を回収可能価額まで減額し、建物附属設備11百万円、工具器具備品3百万円、その他2百万円を特別損失に計上した。当該資産の回収可能価額については、当該店舗の退店を検討しており、当該資産の他への転用及び売却の可能性がないことから、帳簿価額の全額を減損損失として計上している。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	21百万円	17百万円
組替調整額	- "	- "
税効果調整前	21 "	17 "
税効果額	7 "	6 "
その他有価証券評価差額金	13 "	11 "
その他の包括利益合計	13 "	11 "

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	83,790	-	-	83,790
合計	83,790	-	-	83,790
自己株式				
普通株式	42	1	-	44
合計	42	1	-	44

(注) 普通株式の自己株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加である。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月14日 取締役会	普通株式	167	2	平成24年3月31日	平成24年6月12日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の 種類	配当金の 総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年5月14日 取締役会	普通株式	167	利益剰余金	2	平成25年3月31日	平成25年6月11日

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数（千株）	当連結会計年度増加株式数（千株）	当連結会計年度減少株式数（千株）	当連結会計年度末株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	83,790	-	-	83,790
合計	83,790	-	-	83,790
自己株式				
普通株式	44	1	-	46
合計	44	1	-	46

（注）普通株式の自己株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加である。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年5月14日 取締役会	普通株式	167	2	平成25年3月31日	平成25年6月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成26年5月13日 取締役会	普通株式	167	利益剰余金	2	平成26年3月31日	平成26年6月11日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

1 当連結会計年度に株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の売却により(株)恵光水産が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに(株)恵光水産株式の売却価額と売却による収入は次のとおりである。

流動資産	50百万円
固定資産	2
流動負債	24
固定負債	14
株式売却後の投資勘定等	5
株式売却益	66
(株)恵光水産株式の売却価額	75
(株)恵光水産現金及び現金同等物	32
差引：売却による収入	42

2 当連結会計年度に事業の譲受けにより増加した資産の主な内訳は次のとおりである。

固定資産	444百万円
のれん	777
資産合計	1,221

3 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金勘定	382百万円	1,214百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	10 "	30 "
関係会社預け金勘定	988 "	658 "
預入期間が3か月を超える関係会社預け金	700 "	250 "
現金及び現金同等物	660 "	1,592 "

(リース取引関係)

1. ファイナンスリース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

冷蔵倉庫事業における冷蔵保管に係る設備(車両運搬具、工具器具備品)、水産物卸売事業並びに本社部門における事務備品(工具器具備品)、車両運搬具などです。

(イ) 無形固定資産

冷蔵倉庫事業、水産物卸売事業におけるソフトウェアです。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

(減損損失について)

当連結会計年度にリース資産に配分された減損損失は0百万円です。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融資産に対する取組方針

当社グループは、主に冷蔵倉庫事業の設備投資を行うため、銀行借入や関係会社借入により必要な資金を調達しております。一時的な余資は、関係会社預け金等で運用しております。また、デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を適時把握しております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、時価については、適時把握すると共に、期末時点で時価が著しく下落した場合は強制評価減を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。水産物卸売事業の営業債務の一部に原料等の輸入に伴う外貨建て債務があり、為替の変動リスクに晒されておりますが、将来の為替相場による損失を回避するため、為替予約取引において、財務上発生している為替リスクをヘッジし、リスク管理を効率的に行うためデリバティブ取引を導入しています。

借入金のうち、主なものは長期借入金であり、主に冷蔵倉庫事業の設備投資に係る資金調達です。償還日は最長で決算日後14年であります。

営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されていますが、当社グループでは、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

デリバティブ取引は、上述したとおり、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引です。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、経理規程等に従い、営業債権については、得意先毎に債権の発生時期及び回収の予定時期を整理し、その回収状況に注意を払い、適切に管理しております。また、営業債権の残高確認を定期的に年1回以上行い、取引先との間に誤差が生じている場合には、遅滞なく原因を究明し、適切な対応を取っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するため、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、外貨建ての営業債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループでは、担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新することによって管理をしております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるもの、あるいは、重要性が乏しいものについては、次表には含まれません(注2)参照)。

前連結会計年度（平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
資 産			
(1) 現金及び預金	382	382	-
(2) 受取手形及び売掛金	4,026	4,026	-
(3) 関係会社預け金	988	988	-
(4) 投資有価証券 其他有価証券	31	31	-
負 債			
(1) 支払手形及び買掛金	(4,190)	(4,190)	-
(2) 短期借入金	(1,500)	(1,500)	-
(3) 長期借入金	(3,398)	(3,464)	65
(4) デリバティブ取引	-	-	-

当連結会計年度（平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
資 産			
(1) 現金及び預金	1,214	1,214	-
(2) 受取手形及び売掛金	4,054	4,054	-
(3) 関係会社預け金	658	658	-
(4) 投資有価証券 其他有価証券	61	61	-
負 債			
(1) 支払手形及び買掛金	(4,326)	(4,326)	-
(2) 短期借入金	(2,975)	(2,975)	-
(3) 長期借入金	(8,621)	(8,657)	36
(4) デリバティブ取引	-	-	-

負債に計上されているものについては、()で示しています。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金 並びに(3) 関係会社預け金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

「投資有価証券 其他有価証券」はすべて株式であり、株式は取引所の価格によっております。

なお、其他有価証券の連結貸借対照表計上額と取得価額との差額については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1) 支払手形及び買掛金 (2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

なお、一年以内返済予定の長期借入金についても、当欄に含めて記載しております。

(4) デリバティブ取引

詳細は注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区 分	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
非上場株式	131	233
関係会社株式	10	10

上記の非上場株式、関係会社株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(4) 投資有価証券 その他有価証券」には含まれていません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	376	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,026	-	-	-
関係会社預け金	988	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期があるもの	-	-	-	-

当連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	1,206	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,054	-	-	-
関係会社預け金	658	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期があるもの	-	-	-	-

(注4) 借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	1,500	-	-	-	-	-
長期借入金	208	159	265	265	236	2,264
合計	1,708	159	265	265	236	2,264

当連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	2,975	-	-	-	-	-
長期借入金	527	762	754	724	715	5,138
合計	3,502	762	754	724	715	5,138

(有価証券関係)

1. 其他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得価額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	31	23	7
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	31	23	7
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	0	0	0
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	0	0	0
合計		31	24	7

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得価額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	61	47	13
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	61	47	13
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		61	47	13

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額 前連結会計年度131百万円、当連結会計年度233百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが困難と認められることから、上表のその他有価証券には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
該当事項ありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成25年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成25年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年 超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金 支払手形	364	-	(注)

当連結会計年度(平成26年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成26年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年 超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金 支払手形	497	-	(注)

(注) 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている営業債務と一体として処理されているため、その時価は、当該営業債務の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関係

前連結会計年度(平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)
前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、退職一時金制度を採用しています。また、従業員の退職等に関して割増退職金を支払う場合があります。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)
イ. 退職給付債務(百万円)	870
ロ. 退職給付引当金(百万円)	870

(注) 提出会社及びすべての連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用している。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
イ. 勤務費用(百万円)	85
ロ. 退職給付費用(百万円)	85

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、一部連結子会社を除き、従業員の退職給付に充てるため非積立型の確定給付制度を採用しています。確定給付制度は、内部引当による退職一時金制度により、退職給付として従業員の給与と勤務期間に基づいた一時金を支給いたします。また、当該一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。なお、従業員の退職等に関して割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	870百万円
退職給付費用	82
退職給付の支払額	47
連結除外による減少	14
退職給付に係る負債の期末残高	891

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	891百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	891
退職給付に係る負債	891
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	891

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	82百万円
----------------	-------

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
貸倒引当金	10百万円	8百万円
賞与引当金	27 "	26 "
その他	12 "	21 "
計	51 "	56 "
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	349 "	- "
退職給付に係る負債	- "	359 "
貸倒引当金	- "	2 "
その他	55 "	55 "
評価性引当額	150 "	169 "
計	253 "	247 "
繰延税金負債(固定)		
固定資産圧縮積立金	93 "	85 "
其他有価証券評価差額金	7 "	13 "
計	100 "	99 "
繰延税金資産の純額	204 "	205 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.6 "	3.7 "
受取配当金	0.5 "	0.6 "
住民税均等割	2.2 "	4.2 "
役員賞与	1.0 "	1.6 "
評価性引当額の増減	1.7 "	14.8 "
その他	2.8 "	11.6 "
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	- "	1.9 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.2 "	52.0 "

3. 法人税等の税率の変更等による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、同年4月1日に施行されております。これにより平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.0%から35.6%に変更されております。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は、6百万円減少し、法人税等調整額が6百万円増加しております。

(企業結合等関係)

子会社の事業譲受

株式会社ハウスイは、平成25年3月15日開催の取締役会において、子会社となる株式会社せんにちを設立し、当該子会社において株式会社千日総本社の事業の一部を譲り受けることを決議いたしました。当社の子会社である株式会社せんにちは、平成25年4月19日付で株式会社千日総本社と事業譲渡契約書を締結いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 譲り受ける相手会社の名称 株式会社千日総本社

(2) 譲り受けた事業

水産練製品(厚焼・おぼろ等)、惣菜(玉子加工、錦糸等)、冷凍食品の製造販売、
外食産業に関連する食材の製造及び加工販売に関する事業

(3) 企業結合を行った主な理由

事業譲受により、当社が強みをもつ水産物卸売事業との販売上の相乗効果を活かし、売上の拡大と利益の確保に努め、当社グループの業績向上を図るため。

(4) 企業結合日 平成25年5月1日

(5) 企業結合の法的形式 事業譲受

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成25年5月1日から平成26年3月31日まで

3. 取得した事業の取得原価

取得対価 1,221百万円

取得原価 1,221百万円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん 777百万円

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間 10年間の均等償却

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

(百万円)

資 産		負 債	
項目	帳簿価額	項目	帳簿価額
流動資産	-	流動負債	-
固定資産	444	固定負債	-
有形固定資産	407		
無形固定資産	11		
投資その他の資産	24		
合計	444	合計	-

6. 企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

子会社株式の一部売却契約の締結

当社は、平成25年6月14日の取締役会において、連結子会社である株式会社恵光水産の当社保有の株式の一部を売却することを決議し、平成25年6月28日付で売買契約を締結いたしました。

1. 事業分離の概要

(1) 子会社及び売却先企業の名称及び事業の内容

子会社：恵光水産株式会社

売却先企業：丸水札幌中央水産株式会社

事業の内容：鮮魚小売専門店の販売形態による鮮魚小売業

(2) 売却の理由

恵光水産は、当社からの業務委託を受けて札幌地域に鮮魚専門小売店を3店舗営んでいましたが、経営効率をより高めるため、同地域を熟知し、鮮魚販売ノウハウを持つ丸水札幌中央水産株式会社に同社株式の一部を譲渡いたしました。

(3) 株式譲渡日 平成25年7月1日

(4) 法的形式を含む売却の概要

法的形式	株式譲渡
売却前の所有株式数	200株 (所有割合100%)
売却株式数	170株 (所有割合85%)
売却後の株式数	30株 (所有割合15%)
売却価格	75百万円

2. 実施した会計処理の概要

関係会社株式売却益63百万円を特別利益として計上しております。

3. 当該子会社が含まれていた報告セグメントの名称

水産物卸売事業

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額につき、重要性に乏しいため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に事業統括の本部を置き、水産物等の冷蔵保管及びその加工製品の販売、リテールサポートについて事業展開しており、「冷蔵倉庫事業」、「水産物卸売事業」を報告セグメントとしております。

「冷蔵倉庫事業」は、水産物等の冷蔵保管を行っております。「水産物卸売事業」は、水産物及びその加工製品の販売、リテールサポートなどを行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)2	連結財務諸表計 上額 (注)1
	冷蔵倉庫事業	水産物卸売事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,236	40,214	44,451	-	44,451
セグメント間の内部売上高 又は振替高	98	16	115	115	-
計	4,335	40,231	44,566	115	44,451
セグメント利益	263	185	449	-	449
セグメント資産	9,853	6,896	16,750	395	17,146
その他の項目					
減価償却費(注)3	556	74	631	5	636
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額(注)3	3,271	59	3,331	6	3,337

(注)1. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っている。

2. セグメント資産のうち、調整額に含めた全社資産の金額は395百万円であり、その主なものは管理本部に係る資産である。

3. 減価償却費及び無形固定資産の増加額には長期前払費用と同費用に係る償却額が含まれている。

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注) 2	連結財務諸表計 上額 (注) 1
	冷蔵倉庫事業	水産物卸売事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,266	46,220	50,486	-	50,486
セグメント間の内部売上高 又は振替高	101	17	119	119	-
計	4,368	46,237	50,606	119	50,486
セグメント利益	185	14	199	-	199
セグメント資産	14,091	9,913	24,004	419	24,423
その他の項目					
減価償却費(注) 3	606	118	724	5	729
のれん償却額	-	71	71	-	71
減損損失	-	17	17	-	17
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額(注) 3	4,661	2,121	6,782	0	6,783

- (注) 1. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っている。
2. セグメント資産のうち、調整額に含めた全社資産の金額は419百万円であり、その主なものは管理本部に係る資産である。
3. 減価償却費及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用と同費用に係る償却額を含める。

【関連情報】

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（百万円）

	冷蔵倉庫事業	水産物卸売事業	合計
外部顧客への売上高	4,236	40,214	44,451

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
イオンリテール株式会社	13,827	水産物卸売事業

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（百万円）

	冷蔵倉庫事業	水産物卸売事業	合計
外部顧客への売上高	4,266	46,220	50,486

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
イオンリテール株式会社	14,306	水産物卸売事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

	水産物卸売事業	全社・消去	合計
減損損失	17	-	17

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

平成20年4月1日に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位:百万円）

	水産物卸売事業	合計
当期償却額	36	36
当期末残高	183	183

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

平成20年4月1日に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位:百万円）

	水産物卸売事業	合計
当期償却額	36	36
当期末残高	146	146

平成25年5月1日に行われた企業結合により発生したのれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

	水産物卸売事業	合計
当期償却額	71	71
当期末残高	706	706

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る）

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	中央魚類(株)	東京都中央区	2,995	水産物卸売事業	直接 55.2%	当社の商品の販売及び同社の商品の購入 役員の兼任	水産物の販売、冷蔵保管	447	売掛金他	44
							水産物の購入他	2,873	買掛金他	251
							資金の借入	0	関係会社借入金	134
							資金の返済	115		
							利息の支払	2	未払費用	0
主要株主	日本水産(株)	東京都千代田区	23,729	漁業その他の水産業、食品の製造加工及び販売	直接 27.8%	当社の商品の販売及び同社の製商品の購入 役員の兼任	水産物の販売他	426	売掛金他	66
							水産物の購入他	197	買掛金他	28

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等
重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る）
重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 関係会 社の子 会社	(株)ニッ スイ・ ジー ネット	東京都 千代田 区	10	金融業	-	当社の資金預 け入れ及び借 入れ	資金の借入	1,900	関係会 社借入 金	900
							資金の返済	1,800		
							資金の預入	0	関係会 社預け 金	0
							利息収入	0	未収利 息	0
							利息の支払	12	未払費 用	2

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る）

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	中央魚 類(株)	東京都 中央区	2,995	水産物卸 売事業	直接 55.2%	当社の商品の 販売及び同社 の商品の購入 役員の兼任	水産物の購入	1,075	買掛金	196

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	北海道ベスカ(株)	北海道札幌市	20	水産物卸売事業	間接 50.0%	同社の商品の購入	水産物の購入 他	3,805	買掛金	346

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)

重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 関係会社の子 会社	(株)ニッスイ・ジーネット	東京都千代田区	10	金融業	-	当社の資金預け入れ及び借入れ	資金の預入	988	関係会社預け金	988
							利息収入	5	未収入金	-

2. 親会社に関する注記

中央魚類株式会社(東京証券取引所市場第二部に上場)

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る）

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	中央魚類(株)	東京都中央区	2,995	水産物卸売事業	直接 55.2%	当社の商品の販売及び同社の商品の購入 役員の兼任	水産物の販売、冷蔵保管	227	売掛金他	21
							水産物の購入他	1,145	買掛金他	3
							資金の借入	2,400	関係会社借入金	2,424
							資金の返済	109		
							利息の支払	12	未払費用	0
主要株主	日本水産(株)	東京都千代田区	23,729	漁業その他の水産業、食品の製造加工及び販売	直接 27.8%	当社の商品の販売及び同社の製商品の購入 役員の兼任	水産物の販売他	462	売掛金他	37
							水産物の購入他	214	買掛金他	18

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等
重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る）
重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 関係会 社の子 会社	(株)ニッ スイ・ ジー ネット	東京都 千代田 区	10	金融業	-	当社の資金預 け入れ及び借 入れ	資金の借入	1,100	関係会 社借入 金	800
							資金の返済	1,200		
							資金の預入	0	関係会 社預け 金	0
							利息収入	0	未収利 息	0
							利息の支払	12	未払費 用	3

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る）

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	中央魚 類(株)	東京都 中央区	2,995	水産物卸 売事業	直接 55.2%	当社の商品の 販売及び同社 の商品の購入 役員の兼任	水産物の購入	3,526	買掛金	282
							資金の借入	1,250		
							資金の返済	178	関係会社 借入金	1,071

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	北海道ベスカ(株)	北海道札幌市	20	水産物卸売事業	間接 50.0%	同社の商品の購入	水産物の購入 他	4,299	買掛金	389

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)

重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 関係会社の子 会社	(株)ニッスイ・ジーネット	東京都千代田区	10	金融業	-	当社の資金預け入れ及び借入れ	資金の預入	658	関係会社預け金	658
							利息収入	6	未収入金	0

2. 親会社に関する注記

中央魚類株式会社(東京証券取引所市場第二部に上場)

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	63.91円	63.54円
1株当たり当期純利益金額	2.97円	1.50円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額(百万円)	248	125
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(百万円)	248	125
期中平均株式数(千株)	83,746	83,744

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,500	2,975	0.7	-
1年以内に返済予定の長期借入金	208	527	1.2	-
1年以内に返済予定のリース債務	74	115	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,190	8,094	1.4	平成27年～平成40年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	141	252	-	平成27年～平成32年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	5,114	11,964	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載している。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載していない。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりである。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	762	754	724	715
リース債務	97	80	50	21

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	11,691	24,118	38,160	50,486
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	165	281	474	334
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	57	105	199	125
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	0.68	1.26	2.38	1.50

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額()(円)	0.68	0.57	1.12	0.87

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	255	80
受取手形	0	0
売掛金	2 1,937	2 3,023
商品	1,116	1,468
貯蔵品	6	9
前払費用	37	39
関係会社預け金	2 0	2 0
繰延税金資産	46	50
未収入金	2 11	2 24
その他	57	167
貸倒引当金	28	23
流動資産合計	3,440	4,842
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,117	8,486
構築物	50	137
機械装置及び運搬具	617	1,025
工具器具備品	62	123
土地	3,096	3,096
リース資産	215	304
建設仮勘定	968	-
有形固定資産合計	1 9,128	1 13,174
無形固定資産		
電話加入権	7	7
借地権	122	122
ソフトウェア	0	-
無形固定資産合計	129	129
投資その他の資産		
投資有価証券	163	268
関係会社株式	130	127
長期貸付金	6	5
長期差入保証金	111	114
繰延税金資産	139	130
その他	10	9
投資その他の資産合計	561	656
固定資産合計	9,819	13,961
資産合計	13,259	18,803

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	301	438
買掛金	2 861	2 1,695
短期借入金	1 538	1 1,033
関係会社短期借入金	2 1,270	2 1,315
リース債務	74	94
未払金	13	50
未払費用	2 206	2 191
未払法人税等	98	76
預り保証金	58	62
賞与引当金	59	60
役員賞与引当金	13	14
前受金	38	51
その他	32	22
流動負債合計	3,567	5,106
固定負債		
長期借入金	1 3,126	1 4,993
関係会社長期借入金	2 64	2 2,208
リース債務	141	211
長期未払金	101	101
退職給付引当金	829	856
本社移転損失引当金	147	147
預り保証金	5	5
固定負債合計	4,414	8,523
負債合計	7,982	13,630
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,485	2,485
資本剰余金		
資本準備金	551	551
その他資本剰余金	376	376
資本剰余金合計	928	928
利益剰余金		
利益準備金	70	70
その他利益剰余金		
別途積立金	1,246	1,246
修繕積立金	80	80
固定資産圧縮積立金	165	154
繰越利益剰余金	292	190
利益剰余金合計	1,854	1,740
自己株式	5	6
株主資本合計	5,261	5,148
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15	24
評価・換算差額等合計	15	24
純資産合計	5,277	5,172
負債純資産合計	13,259	18,803

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	1 16,260	1 18,718
売上原価		
商品期首たな卸高	970	1,116
当期商品仕入高	11,141	13,855
合計	12,112	14,971
商品期末たな卸高	1,116	1,468
商品売上原価	10,996	13,502
冷蔵事業原価	3,703	3,813
売上原価合計	1 14,699	1 17,315
売上総利益	1,561	1,402
販売費及び一般管理費	1, 2 1,289	1, 2 1,187
営業利益	271	214
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	7	7
補助金収入	46	17
その他	66	76
営業外収益合計	1 120	1 102
営業外費用		
支払利息	45	93
租税公課	20	-
借入手数料	40	-
その他	0	2
営業外費用合計	1 105	1 96
経常利益	286	220
特別利益		
関係会社株式売却益	-	66
特別利益合計	-	66
特別損失		
減損損失	-	17
関係会社株式評価損	-	3 82
特別損失合計	-	100
税引前当期純利益	286	186
法人税、住民税及び事業税	135	134
法人税等調整額	0	1
法人税等合計	134	132
当期純利益	151	54

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
						別途積立金	修繕積立金	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,485	551	376	928	70	1,246	80	177	296	1,870
当期変動額										
剰余金の配当									167	167
当期純利益									151	151
固定資産圧縮積立金の積立										
固定資産圧縮積立金の取崩								12	12	
自己株式の取得										
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	12	4	16
当期末残高	2,485	551	376	928	70	1,246	80	165	292	1,854

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	5	5,278	1	5,279
当期変動額				
剰余金の配当		167		167
当期純利益		151		151
固定資産圧縮積立金の積立				-
固定資産圧縮積立金の取崩				-
自己株式の取得	0	0		0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			13	13
当期変動額合計	0	16	13	2
当期末残高	5	5,261	15	5,277

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
						別途積立金	修繕積立金	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,485	551	376	928	70	1,246	80	165	292	1,854
当期変動額										
剰余金の配当									167	167
当期純利益									54	54
固定資産圧縮積立金の積立								0	0	
固定資産圧縮積立金の取崩								12	12	
自己株式の取得										
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	11	101	113
当期末残高	2,485	551	376	928	70	1,246	80	154	190	1,740

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	5	5,261	15	5,277
当期変動額				
剰余金の配当		167		167
当期純利益		54		54
固定資産圧縮積立金の積立				-
固定資産圧縮積立金の取崩				-
自己株式の取得	0	0		0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			9	9
当期変動額合計	0	113	9	104
当期末残高	6	5,148	24	5,172

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

・時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・時価のないもの

移動平均法による原価法

(3) デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法

(4) たな卸資産の評価基準及び評価方法

・商品、原材料

個別法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

・貯蔵品

個別法に基づく原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)については定額法。建物以外については定率法(魚惣菜専門店の建物附属設備については定額法)

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用している。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を勘案し、回収不能見込額を計上している。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上している。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上している。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、期末における退職給付債務に基づき計上している。

(5) 本社移転損失引当金

本社移転に伴い発生する損失に備えるため、発生が見込まれる固定資産除却損について合理的な見積額を計上している。

4. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっている。ただし、為替予約取引については振当処理を適用している。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 ... 為替予約

ヘッジ対象 ... 外貨建債権債務に係る将来の為替変動リスク

(3) ヘッジ方針

為替変動リスクを回避するために行っている。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性の判断を行っている。

7. その他財務諸表作成のための重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用している。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表においては、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条の第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については同条第4項より記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりである。

	前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
土地	2,190	百万円	2,190	百万円
建物	922	(922百万円)	2,969	(840百万円)
構築物	22	(22 ")	18	(18 ")
機械装置	78	(78 ")	70	(70 ")
計	3,213	(1,023 ")	5,249	(929 ")

担保付債務は、次のとおりである。

	前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
1年内返済予定の長期借入金	38	(38百万円)	133	(38百万円)
長期借入金	3,126	(126 ")	4,993	(87 ")
計	3,164	(164 ")	5,126	(126 ")

上記のうち、()内書は工場財団抵当並びに当該債務を示している。

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

関係会社に対する資産及び負債は次のとおりである。

	前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
短期金銭債権	335	百万円	1,386	百万円
短期金銭債務	1,504	百万円	1,613	百万円
長期金銭債務	134	百万円	2,208	百万円

3 保証債務

他の会社の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
中央フーズ(株)	-	百万円	400	百万円
(株)せんにち	-	百万円	1,071	百万円
(株)水産流通	-	百万円	375	百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれている。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	3,322百万円	6,073百万円
仕入高	3,062百万円	2,285百万円
営業取引以外の取引による取引高	239百万円	74百万円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
役員報酬	133百万円	136百万円
給与諸手当	274百万円	259百万円
貸倒引当金繰入額	7百万円	5百万円
賞与引当金繰入額	22百万円	22百万円
退職給付費用	41百万円	42百万円
役員退職慰労引当金繰入額	10百万円	-百万円
役員賞与引当金繰入額	13百万円	14百万円

3 関係会社株式評価損

株式会社せんにちの株式減損処理に伴う評価損である。

(有価証券関係)

子会社株式(前事業年度の貸借対照表表計上額は関係会社株式130百万円、当事業年度の貸借対照表表計上額は関係会社株式127百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	10百万円	8百万円
賞与引当金	22 "	21 "
本社移転損失引当金	52 "	52 "
退職給付引当金	335 "	341 "
その他	15 "	53 "
評価性引当額	150 "	196 "
繰延税金資産合計	285 "	279 "
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	93 "	85 "
その他有価証券評価差額金	7 "	12 "
繰延税金負債合計	100 "	97 "
繰延税金資産の純額	185 "	181 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.2 "	4.5 "
受取配当金	0.9 "	1.1 "
住民税均等割	3.5 "	6.3 "
役員賞与	1.8 "	2.9 "
評価性引当額の増減	3.0 "	26.6 "
その他	0.6 "	8.7 "
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	- "	2.5 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.1 "	71.0 "

3. 法人税等の税率の変更等による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、同年4月1日に施行されております。これにより平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.0%から35.6%に変更されております。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は、4百万円減少し、法人税等調整額が4百万円増加しております。

(企業結合等関係)

「1連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項(企業結合等関係)」における記載内容と同一であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却累 計額 (百万円)
有形固定資産						
建物及び構築物	4,167	4,837	22 (11)	360	8,623	7,282
機械装置及び運搬具	617	544	86	50	1,025	2,305
工具器具及び備品	62	85	12 (3)	11	123	185
土地	3,096	-	-	-	3,096	-
リース資産	215	186	94 (0)	3	304	194
建設仮勘定	968	4,269	5,237	-	-	-
有形固定資産計	9,128	9,923	5,453 (16)	424	13,174	9,968
無形固定資産						
電話加入権	7	0	-	-	7	-
借地権	122	-	-	-	122	-
ソフトウェア	0	-	-	0	-	0
無形固定資産計	129	0	-	0	129	0

(注) 1. 当期増減額のうち、主な内訳は下記のとおりである。

建物及び構築物	増加額(百万円)	市川物流センター	2,674	市川流通センター	2,002
機械装置及び運搬具	増加額(百万円)	市川物流センター	383	市川流通センター	118
建設仮勘定	増加額(百万円)	市川物流センター	2,139	市川流通センター	2,130
	減少額(百万円)	市川物流センター	3,085	市川流通センター	2,152

2. 「当期減少額」欄の()は内書きで、減損損失の計上額である。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	28	23	28	23
賞与引当金	59	60	59	60
役員賞与引当金	13	14	13	14
本社移転損失引当金	147	-	-	147

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	平成21年1月15日当社株式取扱規程の改正により、単元未満株式の買取りに係る買取手数料は無しといたしました。
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、東京都内で発行する日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	なし

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社の金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第78期）（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）平成25年6月25日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書

平成25年6月25日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第79期第1四半期）（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）平成25年8月13日関東財務局長に提出

（第79期第2四半期）（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）平成25年11月13日関東財務局長に提出

（第79期第3四半期）（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）平成26年2月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成25年6月28日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づくものであります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成28年4月14日

株式会社ハウスイ
取締役会 御中

監査法人 和宏事務所

代表社員
業務執行社員 公認会計士 大塚 尚吾

業務執行社員 公認会計士 畝 照尚

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハウスイの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の訂正後の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ハウスイ及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は訂正前の連結財務諸表に対して平成26年6月23日に監査報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成28年 4月14日

株式会社ハウスイ
取締役会 御中

監査法人 和宏事務所

代表社員
業務執行社員 公認会計士 大塚 尚吾

業務執行社員 公認会計士 畝 照尚

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハウスイの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第79期事業年度の訂正後の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ハウスイの平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は訂正前の財務諸表に対して平成26年6月23日に監査報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。